

DIAGNOSTIC TOOL

操作ガイド

HDM-10000

いすゞ/NOx センサー交換後の作業サポート「NOx センサーデータリセット」 (エルガ/LV290 の例)

注意事項/必ずお読みください

- 本書は Astemo ダイアグノスティックツール HDM-10000 用診断ソフトの診断機能の操作方法、活用事例について紹介するものです。自動車メーカー発行の整備解説書を代替するものではありません。
- 実際の作業にあたっては必ず自動車メーカー発行の整備解説書で正式な作業手順、注意事項をご参照のうえ、作業を行ってください。
- 自動車メーカーにより予告なく車両の仕様が変更されるため、本資料で紹介する機能が使用できない場合があります。

1.NOx センサーデータリセットについて

- いすゞ車では NOx センサーを交換したあと、作業サポート「NOx センサーデータリセット 1」または「NOx センサーデータリセット 2」を使用する車両があります。
- 本書ではエルガ(LV290)での「NOx センサーデータリセット 1」の手順を紹介します。

NOx センサーを交換
(1 ページの手順 01)



「NOx センサーデータリセット 1」を実行
(1～3 ページの手順 02～04)

2.HDM-10000 による「NOx センサーデータリセット 1」(エルガ/LV290 の例)

【手順 01:NOx センサーの交換】

整備解説書の手順に従い NOx センサーの交換を行ってください。

【手順 02:HDM-10000 の車両への接続】

- ①車両側のバッテリーリレースイッチを ON にしてください。
- ②HDM-10000 を車両側診断コネクタに接続してください。
HDM-10000 が起動します。
- ③車両側のスタータスイッチを ON にしてください。
- ④HDM-10000 メニュー内の「診断」を選択して
ENTER キーを押してください。



(次ページに続きます)

【手順 03:いすゞ診断ソフトの起動からいすゞメインメニューの表示まで】

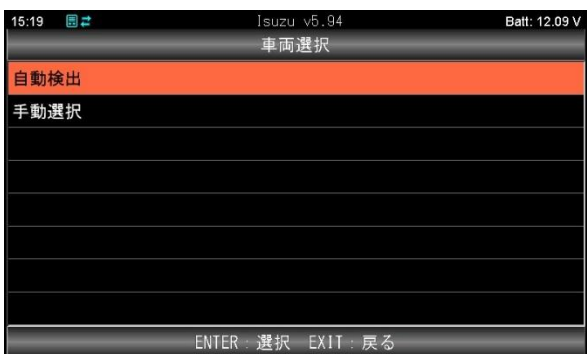
- ①「メーカー選択」の画面が表示されたら「国産トラック」を選択し、画面の右側の一覧で「いすゞ」を選択して ENTER キーを押してください。いすゞ診断ソフトが起動します。



- ②「対象年式の選択」が表示されたら「2007 年以降」を選択して ENTER キーを押してください。次に「コネクタ選択」が表示されたら「OBD II コネクタ」を選択して ENTER キーを押してください。



- ③「車両選択」が表示されたら「自動検出」を選択して ENTER キーを押してください。「車体番号読み取り中」のメッセージが表示されたあと「車両情報」が表示されます。表示内容を確認して ENTER キーを押してください。



- ④「いすゞメインメニュー」が表示されます。



(次ページに続きます)

【手順 04:作業サポートの選択から「NOx センサーデータリセット 1」の実行まで】

- ①「いすゞメインメニュー」で「作業サポート」を選択して ENTER キーを押してください。「車両搭載システム確認中」が表示されたあと「作業サポート」が表示されます。「尿素 SCR」を選択して ENTER キーを押してください。



- ②「しばらくお待ちください」が表示されたあと「尿素 SCR 作業サポート」が表示されます。「尿素 SCR 作業サポート」で「NOx センサー1 データリセット」を選択して ENTER キーを押してください。



- ③「しばらくお待ちください」が表示されたあと右図の画面が表示されます。
エンジンが停止中であることが確認できたら ENTER キーを押してください。



- ④「選択してください」が表示されたら ENTER キーを押してください。「データリセットに成功しました。」が表示されたら完了です。



- ⑤最後に車両側のスタータスイッチを 30 秒間 OFF にしてください。

(2026.08.17 発行)